

第5章 地域別構想

5-1 滝川市街地

(1) 現状と課題

①都市拠点

本市の中心市街地として、商業施設の集積等により賑わいのある地域となっていました。国道12号滝川バイパス沿道などの郊外部への商業施設の進出等に伴い商業機能の衰退が進み、賑わいの低下が深刻な問題となっています。

近年では、栄町3-3地区の再開発やJR滝川駅前広場の再整備、共同住宅の立地が進んだ一方で、大規模商業施設の閉鎖、空きビルが長期間放置されているなど、まちの魅力低下が著しい状況です。

このような現状の中、市民アンケート調査では6割以上の市民が「都市機能の充実を図るべきエリア」として本地域を挙げるなど、「滝川の顔」として賑わいを創出できる土地利用や都市機能の充実が課題となっています。

②広域商業拠点

国道12号滝川バイパス沿道付近は、大型商業施設が集積しているエリアとなっており、現状、都市拠点に代わって本市並びに中空知地域の商業拠点としての役割を果たしています。今後も本地域の機能を維持することが課題となっています。

③観光・交流拠点

本市では、たきかわスカイパークやB&G海洋センターなど、石狩川沿いに点在する施設群の総称を「リバーサイドエリア」と位置づけ、外客誘致・交流人口の拡大を図っています。

石狩川河川敷のたきかわスカイパークは、サマースカイフェスタが夏の恒例イベントとなっているほか、スカイワーケーションの受入れなど、交流人口の拡大に向けた取組を進めています。また、B&G海洋センターでは、カヌーをはじめとした海洋スポーツの普及促進に取り組んでいます。

いずれの施設も建物の老朽化が進んでおり、たきかわスカイパークは修繕による施設機能や景観の維持、B&G海洋センターは再整備が課題となっています。

④居住誘導ゾーン

人口減少、少子高齢化社会に対応したコンパクトで利便性の高い市街地形成に向け、郊外部への市街地拡大を抑制し、市街地内の人口密度の維持を目指すことが必要です。そのため、滝川市立地適正化計画に基づき、「居住誘導ゾーン」を設定しました。本区域においては、居住機能に関連する重点的な取組や支援の検討が課題となります。

⑤交通体系

市街地内の都市計画道路は順次整備を進めてきましたが、広域交通ネットワークを担う主要幹線街路（国道）や都市形成の骨格を担う都市幹線街路（三丁目通）など、未整備区間が存在する状況です。

また環境面での整備については、国道12号や国道451号沿道において環境美化及び緑化推進活動が実施されています。

（2）滝川市街地の基本方針

- ・居心地のよく歩いて楽しい魅力ある都市拠点の形成を図ります。
- ・中空知地域の生活を担う、利便性の高い広域商業拠点の維持・充実を図ります。
- ・滝川ならではの特色と魅力ある観光・交流拠点の形成を図ります。

（3）滝川市街地での主な取組

①都市拠点

都市拠点では、本市の商業や賑わいを支えてきた地域の特性を踏まえ、行政、医療・福祉、交流、文化等の中心となる「滝川の顔」にふさわしい拠点形成を図ります。

- ・「滝川の顔」となる広場等の滞在・交流のできる空間創出を図るとともに、公共機能や医療・福祉等の都市機能を集積するなど、都市拠点として賑わいを創出できる魅力的な土地利用を推進する。（図中①）
- ・老朽化した建物は、周辺環境への影響や来街者への印象を考慮し、有効活用に向け建物の改修・解体や誘導施設の新設、空き店舗への出店の方策を検討する。（図中②）
- ・総合福祉センター跡地などに子育て複合施設の整備を推進する。（図中③）
- ・官公庁施設の再編等の際には、可能な範囲で都市拠点への立地を誘導する。（図中④）
- ・文化施設の再編等の際には、都市拠点での立地可能性を検討する。（図中⑤）
- ・まちづくりセンターみんくるの機能維持に向け、施設のあり方を検討する。（図中⑥）

②広域商業拠点

現状の商業集積を活かし、中空知地域の暮らしを支える拠点として、交通利便性を活かしながら大型商業施設等の生活利便機能の確保を図ります。

- ・土地利用規制の緩和を図り、中空知地域の暮らしを支える拠点としての機能強化を図る。（図中⑦）

③ 観光・交流拠点

これまで実施してきたイベント等の取組を継続しながら、老朽化が進む施設の修繕や再整備に向けた検討を進め、「リバーサイドエリア」内の各施設と連携しながら、引き続き魅力あるレクリエーションの場を確保します。

- たきかわスカイパークでは、スカイスポーツ施設と公園機能が一体化した、滝川ならではの地域資源として、施設の改善や魅力強化に資する取組を検討する。（図中⑧）
- B&G海洋センターでは、施設等の再整備に向けた方向性を検討する。（図中⑨）
- リバーサイドエリア内の各施設が連携し、賑わいの創出を図る。（図中⑩）

④ 居住誘導ゾーン

現状の人口密度や生活利便性の維持を目指すため、共同住宅等の立地を促進するなど居住機能の重点的な形成・誘導を図ります。（図中⑪）

- 「サービス付き高齢者向け住宅」などの高齢者向けの住宅整備を推進する。
- 既存住宅の耐震化など、安全で快適な住宅への改修を促進する。
- 定住促進を図るため、住宅建設や改修への支援等を検討する。
- 公営住宅は、建て替えや再編を図る場合、居住誘導ゾーンへの立地を推進する。
- 空き家・空き店舗の活用に向け、民間事業者との連携により資産活用の促進や解体・除却の支援を検討する。
- 子育て世帯への住み替え支援を図り、既存住宅の流通・利活用を促進する。

⑤ 交通体系

本市や中空知地域の交通ネットワークの充実に向け、主要幹線街路や都市幹線街路を中心に、引き続き道路整備を図ります。

- 大通（国道12号）は、北滝の川地区から江部乙地域までの4車線化について国への要望を行う。（図中⑫）
- 市道西三丁目通線の道道昇格及び三丁目通の未整備区間の整備について北海道への要望を行う。（図中⑬）
- 国道沿道の環境美化、緑化の推進を図る。（図中⑭）
- 居住誘導ゾーン内の区画道路^{※1}については、優先的に整備を行う。（図中⑮）
- 居住誘導ゾーン外の区画道路については、日常点検、定期点検、計画的な補修等を継続する。（図中⑯）

※1 区画道路：本計画では、一般市道のことを示す。

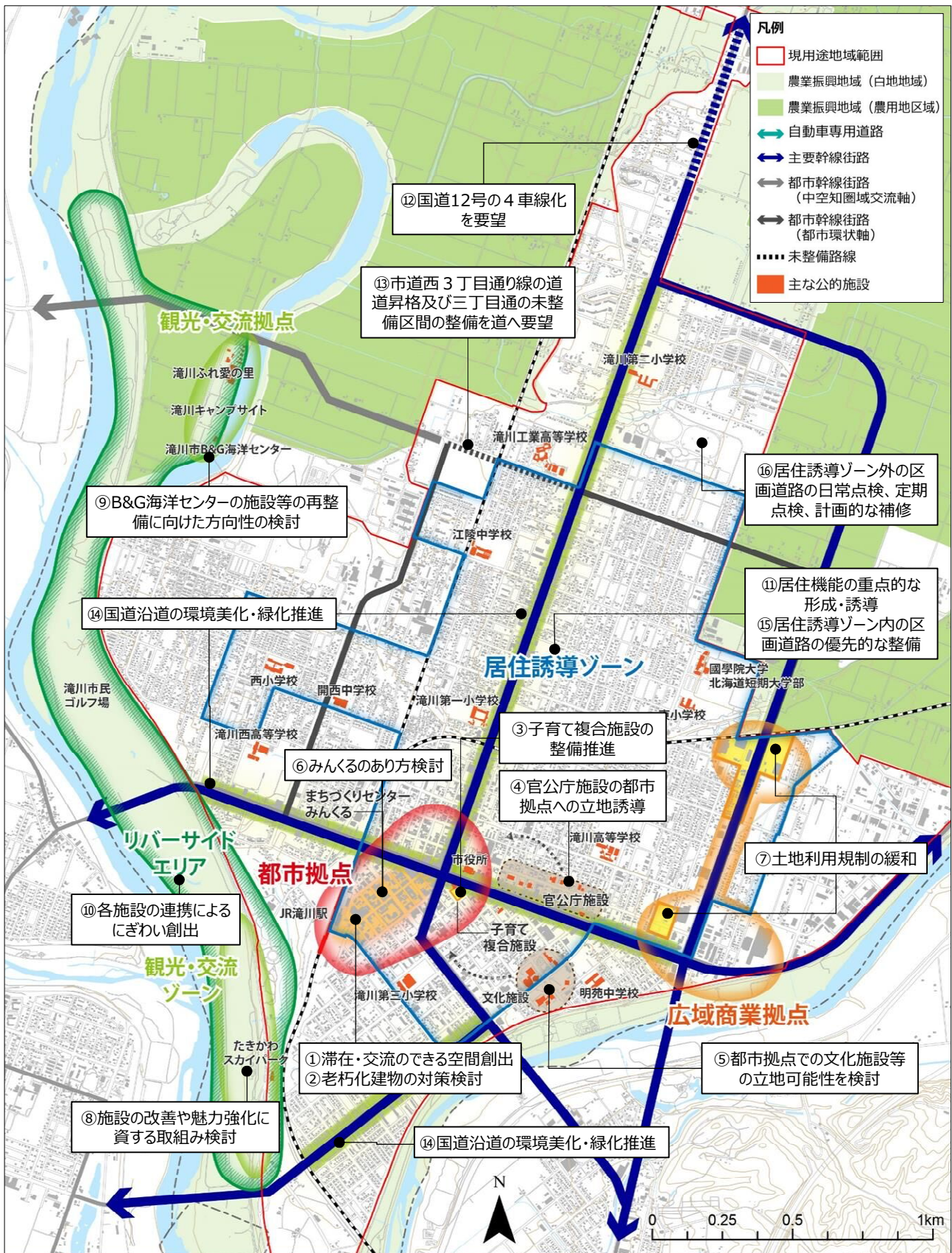


図 滝川市街地の将来構想図

5-2 江部乙地域

(1) 現状と課題

①コミュニティ拠点

江部乙地域のコミュニティ活動の拠点施設である農村環境改善センターは、近年施設のリニューアルとともに児童館の移転や交流スペースの設置を行いました。本施設や JR 江部乙駅では、國學院大學北海道短期大学の学生も含めた地域活動が展開されており、高齢化が進む地域のなかで学生が地域に活力を与えています。こうしたコミュニティ活動を継続するために、次代を担う人材の確保に向けた仕組みづくりの検討が必要です。

②観光・交流拠点

本地域に立地する総合交流ターミナルたきかわは、地域の総合的な情報発信機能を担っているほか、「道の駅たきかわ」としての機能を有しており、今後も本市の観光拠点として活用を図ることが必要です。

③一般住宅地

本地域に立地する公営住宅は、ほとんどの住棟が耐用年数超過となっている状況で需要を踏まえた公営住宅の再編・再整備が必要です。

④交通体系

江部乙地域についても都市計画道路の整備を進めてきましたが、広域交通ネットワークを担う主要幹線街路（国道）や都市形成の骨格を担う都市幹線街路など、未整備区間が存在する状況です。

環境面での整備については、国道 12 号沿道において環境美化及び緑化推進活動が実施されています。

また、バス路線については利用者減少等により、これまでのサービス水準の維持が課題となっています。

(2) 江部乙地域の基本方針

- ・地域における商業・交通機能の維持・確保を図ります。
- ・江部乙地域ならではの顔の見えるコミュニティや交流活動の維持・促進を図ります。
- ・自然環境や地域資源を活かした魅力の創造、交流人口の拡大を図ります。

(3) 江部乙地域での主な取組

①コミュニティ拠点

地域のコミュニティや交流活動の拠点としての機能の維持を図るほか、居住環境の維持に向けた取組を検討します。

- 道の駅たきかわ、農村環境改善センター周辺では、コミュニティや交流活動の拠点に資する機能の集約化が可能となるよう、土地利用規制の緩和を図る。(図中①)
- 農村環境改善センターやJR江部乙駅では、國學院大學北海道短期大学部の学生と連携したコミュニティ機能の維持に向けた活動を推進する。(図中②)

②観光・交流拠点

道の駅たきかわは、滝川らしいオリジナリティをもった観光拠点施設として機能の充実を図ります。

- 道の駅たきかわは市の観光拠点としての機能充実に向け、観光地の周遊を促すための仕組みや情報発信等の強化を行う。(図中③)

③一般住宅地

一般住宅地では、住み慣れた地域生活を維持していくための取組を検討します。

- 公営住宅は需要状況に応じたあり方を検討の上、適正に維持する。(図中④)
- 空き家の発生抑制に向け、解体・除却の実施支援を検討する。
- 農村地域での居住環境を維持する施策を検討する。(二地域居住の促進等)

④交通体系

江部乙地域と滝川市街地、周辺自治体を結ぶ幹線道路の整備を引き続き促進します。公共交通については持続的な運行形態や新たな公共交通の仕組みづくりを検討します。

- 鉄道や既存バス路線の維持、ダイヤ等の見直しについては、引き続き公共交通事業者と連携し、方策を検討する。
- 農村地域の公共交通として、デマンド交通等の導入の可能性を検討する。
- 高齢者等の交通弱者の移動支援の仕組みづくりを検討する。
- 国道12号沿道の環境美化、緑化の推進を図る。(図中⑤)
- 区画道路については、日常点検、定期点検、計画的な補修等を継続する。

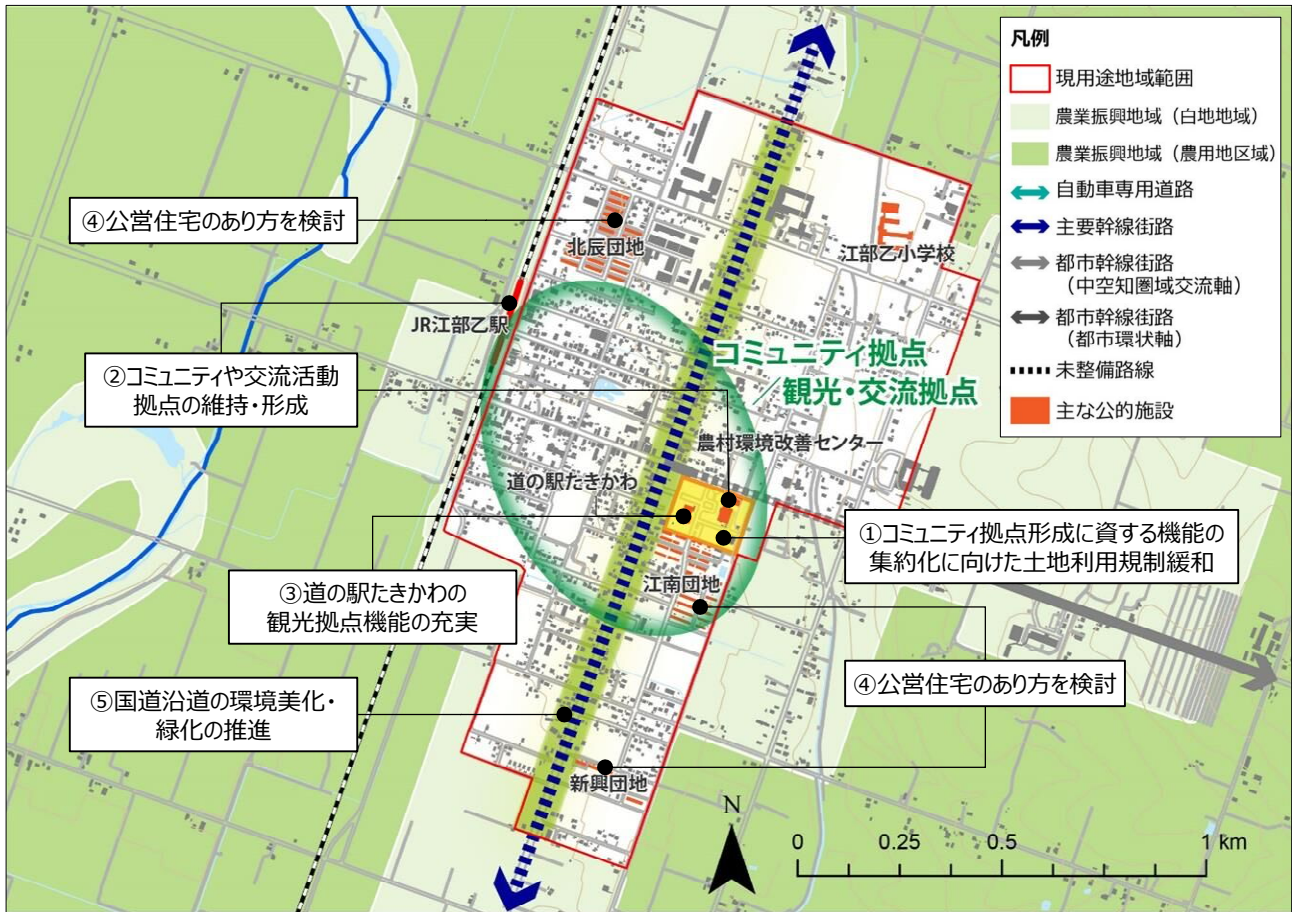


図 江部乙地域の将来構想図

5-3 東滝川地域

(1) 現状と課題

①コミュニティ拠点

本地域では、町内会が中心となり東滝川地域サポートセンターを立ち上げ、有償ボランティア事業を実施しているなど、転作研修センターを拠点に地域住民による様々な地域活動が行われており、住民同士が連携したエリアコミュニティが形成されています。一方、高齢化が進行していることから、持続的なコミュニティ活動の運営が課題となっています。

また、コミュニティ活動の拠点となっている転作研修センターは老朽化が進んでおり、維持管理が課題となっています。

旧東栄小学校は、現状太陽光発電用地として活用されていますが、建物は未利用状態となっており、地域活力の向上に資する利活用が課題です。

②一般住宅地

公営住宅として東滝川団地、東栄団地が立地していますが、ほとんどの住棟が耐用年数超過となっている状況であり、需要状況に応じた公営住宅の再編・改修が必要です。

③交通体系

広域交通ネットワークを担う国道38号については、滝川IC東側に未整備区間が存在する状況です。

公共交通については、JR根室本線の東滝川駅が地域内に設置されています。また、バス路線については、利用者減少等の影響により、これまでのサービス水準の維持が課題となっています。

(2) 東滝川地域の基本方針

- ・住環境、公共交通の維持・確保に向けた取組を進めます。
- ・地域の商業機能の維持、遊休地の活用促進を図ります。

(3) 東滝川地域での主な取組

①コミュニティ拠点

未利用となっている旧東栄小学校は有効活用に向けた取組を進めます。また、地域のコミュニティや交流活動の拠点としての機能の維持・充実を図るほか、居住環境の維持に向けた取組を検討します。

- 旧東栄小学校については、コミュニティや交流活動を支える機能の充実に向け、土地利用規制の緩和を図る。(図中①)
- コミュニティ活動の拠点である転作研修センターは、交流機能や避難機能の維持に努めるとともに活用方法を検討する。(図中②)
- 持続的な地域コミュニティ運営に向け、地域活動の情報について行政と地域で共有を図る。

②一般住宅地

一般住宅地では、住み慣れた地域生活を維持していくための取組を検討します。

- 公営住宅は需要状況に応じたあり方を検討の上、適正に維持する。(図中③)
- 空き家の発生抑制に向け、解体・除却の実施支援を検討する。

③交通体系

国道38号の整備を引き続き促進するほか、公共交通については持続的な運行形態への転換、新たな公共交通の仕組みづくりを検討します。

- 滝川インターチェンジ東側区間の4車線化について国への要望を行う。(図中④)
- 鉄道や既存バス路線の維持、ダイヤ等の見直しについては、引き続き公共交通事業者と連携し、方策を検討する。
- 農村地域の公共交通として、デマンド交通等の導入の可能性を検討する。
- 高齢者等の交通弱者の移動支援の仕組みづくりを検討する。
- 区画道路については、日常点検、定期点検、計画的な補修等を継続する。

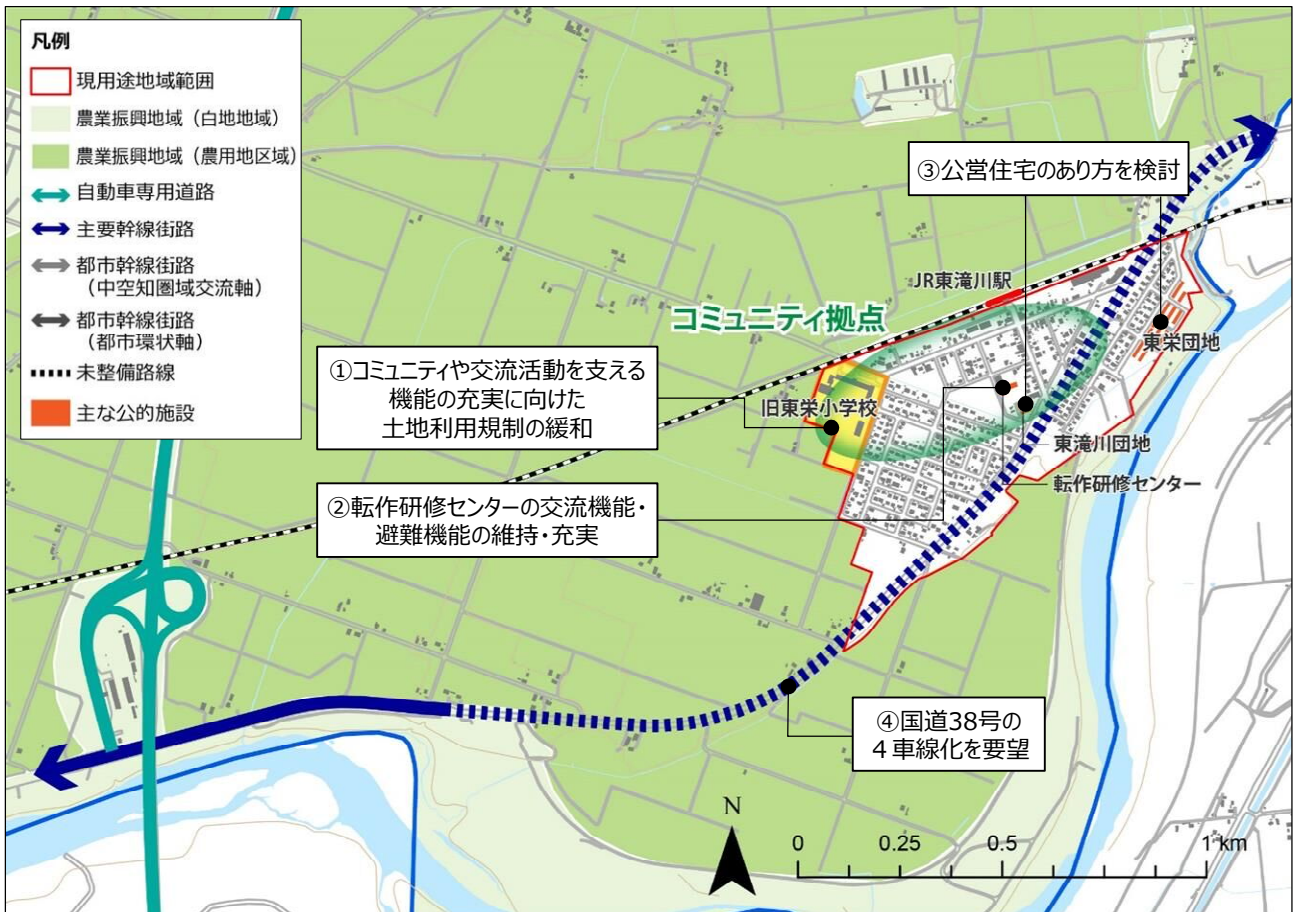


図 東滝川地域の将来構想図